

## 中国語におけるオノマトペの述語用法

### —2音節のオノマトペに焦点を当てて—

黄 慧(HUANG HUI)

(東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程)

キーワード: オノマトペ, 述語用法, 対照研究

#### 1. はじめに

本稿では、中国語<sup>1</sup>におけるオノマトペの文法的特徴のうち、述語用法について考察を行う。そのなかでも、中国語の2音節のオノマトペに焦点を当てて考察を行い、その使用実態および諸特徴について言及することを目的とする。中国語の2音節のオノマトペに焦点を当てた理由については後程述べることにする。

本稿における構成は次のようになっている。まず、2節で先行研究を概観し、3節で研究方法を述べ、4節で収集したデータに基づいて分析・考察を行い、最後に5節でまとめと今後の課題について述べる。

#### 2. 先行研究

中国語におけるオノマトペは、使用状況の特殊性や頻度の低さなどから、その研究はあまり重要視されてこなかった。それゆえに、中国語におけるオノマトペの文法的特徴についての研究は、どれも概説程度にとどまっており、詳細に分析を行った研究は管見の限り見当たらない。

2.1節では中国語におけるオノマトペの定義について述べ、2.2節では中国語におけるオノマトペの述語用法とオノマトペの形態的特徴との関連について述べ、2.3節では中国語におけるオノマトペの述語用法の統語的特徴について述べる。

---

<sup>1</sup> ここでいう中国語とは、中国語における標準語、つまり「普通话(普通語)」である。中国語の漢字にピンインを添える形で用いることもある。用例を提示するにあたり、先行研究で翻訳文が付いているものに関してはそのまま引用することにし、翻訳文がついていないものおよび考察で提示する用例の翻訳はすべて筆者によるものである。日本語で自然な文になるように翻訳を行っているため、翻訳文にはしばしば副詞を伴って表現することがある。中国語におけるオノマトペの述語用法の部分四角で囲み、それに関わる助詞、目的語、補語などには下線を引く。なお先行研究などにおける中国語の専門用語などは括弧に日本語訳を添える。先行研究の引用以外の中国語および中国語の専門用語を使用する際には“ ”で括弧にすることにする。

## 2.1. 中国語におけるオノマトペ概観

### 2.1.1. 中国語におけるオノマトペとは

丹野眞智俊(2005 : 17-19)によれば、「オノマトペ」とは「音による命名、音自身が名になる」ものである。このような意味合いからすると「あるもの、ある現象」を音によって指示すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま写すこと、と定義することができる。このように、日本語における「オノマトペ」という用語は、主に擬音語・擬態語の総称として用いられることが多い。

中国語に関しては耿二岭(1986)の定義を用いる。耿二岭(1986 : 3)では、“拟声词(擬声詞)”別称“象声词(象声詞)”は、自然界の音声を模倣する言葉であり、それらは、造語法の産児であり、現実物質の各種の音声を模倣することで独自に系統を保っていると述べている。

野口宗親(1995)によると、中国語で擬音語に当たる語は“象声詞”または“擬声詞”であり、中国語における象声詞は、一般的に次のようなものを指すという。

#### (1) 動物の声

汪汪 wāngwāng(犬の声)、啾啾 jiūjiū(小鳥や虫の声)

#### (2) 人間の発する言語以外の声や音

哈哈 hāhā(笑い声)阿嚏 ài(くしゃみの音)唧咕 jīgū(小声で話す)

#### (3) 物音

咚 dōng(太鼓の音など)、呼呼 hūhū(風の音など)、噼啪 pīpā(爆竹の音)

野口宗親(1995 : ix)

このように、中国語において「拟声词」は、主に擬音語を指すことが多いが、中国語における象声詞には擬態語的に使われるものも若干含まれているとして次の用例を挙げている。

#### (4) 脸唰地红了

(顔はサッと赤くなった)

#### (5) 太阳穴蹦蹦直跳

(こめかみがピクピクする)

野口宗親(1995 : ix)

野口宗親(1995)では、これらの擬態語的用法は日本語と違い、中国語においては音響と様態をはっきり区別して示す傾向が強く、擬音語・擬態語兼用のものは少ないと述べている。さらに、擬態語にあたる言葉は中国語の文法用語としては特にないと指摘している。

本稿では、野口宗親(1995)に従い、主に擬音語、場合によっては擬態語的な表現も含む形で「オノマトペ」という用語を用いる。

### 2.1.2. 中国語におけるオノマトペの文法的特徴

日本語において、オノマトペは語彙の範疇で論じられているため、オノマトペを品詞として分類することは少なく、オノマトペが文の中に現れて初めて「副詞的用法」「形容詞的用法」「動詞的用法」と呼ぶことがある。

それに対して、耿二岭(1986)によれば、中国語におけるオノマトペは長期間に渡って定まった分類がなく、主に副詞、形容詞、感嘆詞、特殊詞類、独立一類などに分類されていた。象声詞という分類もあるが、耿二岭(1986)を含め、郭锐(2002)でも「擬声詞(拟声词)」という用語を用いている。郭锐(2002)は、主に副詞的用法として用いられる擬音語を「擬声詞(拟声词)」という品詞を設けて分類している。即ち、中国語におけるオノマトペは統語的範疇で論じられ、品詞的としては擬声詞として扱われている。

中国語のオノマトペがどのような文成分として用いられているのかについて触れた先行研究には、邵敬敏(1981)、高増傑(1982)、傅力(1983)、耿二岭(1986)、马庆株(1987)、砂岡和子(1990)、陶振孝(1992)、野口宗親(1995)、李镜儿(2007)などがある。

これらの先行研究を概観すると、中国語のオノマトペは主に、主語、述語、連体修飾語、連用修飾語、独立語、補語、目的語としての文法的役割を果たしている。つまり、中国語のオノマトペの文法的役割は日本語のオノマトペと同じく様々な文成分として用いることができる。高増傑(1982)の研究によれば、中国語のオノマトペも日本語と同じく副詞として動詞を修飾する連用修飾用法が圧倒的に多く約 74%を占めている。それに対して述語成分<sup>2</sup>として用いられたものは全体の僅か 3%しか占めていないという考察結果になっている。

### 2.2. 形態的特徴から見る中国語のオノマトペの述語用法

耿二岭(1986)によると、中国語において 1 音節のオノマトペは、(6)のように現代詩歌で、時に語気助詞を伴わなくても述語として用いられる場合があるが、このような用法は非常に稀である。こういった用法は古代中国語においては頻繁に用いられていたものの、金・元時代以降は口語や文語の中で定着されていないとされている。

(6) 蛙声“呱—”，蝉声“叽—”，晌午送我到梦里。(儿歌)

(蛙声が「ケロ」、セミ声が「ミーン」、昼間私を夢の国に連れて行ってくれる)

(耿二岭 1986)

<sup>2</sup> オノマトペの文法的特徴について言及する際には、動詞述語文／形容詞述語文／名詞述語文／主述述語文／擬声詞述語文と呼んでいる研究があるが、オノマトペの述語文をそれぞれ、動詞的用法および形容詞的用法のように「～用法」と呼んでいる研究もある。日本語において、「動詞的用法／形容詞的用法／副詞的用法／名詞的用法」という分類を行っている。本稿でも、後者のように、「～用法」と呼ぶことにする。

王文格(2010)は、中国語の述語用法に関する考察である。王文格(2010)の考察によれば、中国語の述語成分を分析すると、動詞述語文が 87.71%、形容詞述語文が 3.71%、擬声詞述語文は 0.033%を占めている。即ち、中国語のオノマトペの述語用法は非常に少ないということが分かる。

野口宗親(1995)は、(7)のように重ね形<sup>3</sup>のオノマトペは後ろに助詞「的(de)」をつけて述語になるものがあると述べている。

(7) 大伙叽叽喳喳的，象一群小鸟在叫

(みんなはぺチャクチャしゃべって、子鳥の群れがさえずっているみたいだ)

(野口宗親 1995)

野口宗親(1995)は、中国語の擬音語は日本語は違い、しばしば(8)のように動詞として用いられ、その際には変調を伴い、AB型では第2音節が軽声<sup>4</sup>になると述べている。

(8) 嘴里还是咕噜着

(まだブツブツ言っている)

(野口宗親 1995)

4音節オノマトペは、ほとんど単独で述語用法として用いられている。音韻的にある程度の長さを持つことで安定性を保持しているため、統語的に1~3音節のオノマトペより制約が緩く、オノマトペが単独で現れたり、その他の成分を伴って現れたり比較的自由である。それゆえに、述語成分として用いられる際にも、(9)のように、付加成分なしにオノマトペが単独のまま述語として機能することができると思われる。

(9) 但我们的队伍还是稀里哗啦，很不整齐。

(しかし、私たちの集団はまだバラバラで、きちんとしていない。)

(野口宗親 1995)

先行研究では、単純反復形の3音節のオノマトペやその他の音節のオノマトペが述語用法として用いられた用例も挙げている。(10)は3音節、(11)は6音節のオノマトペが述語として用いられたものである。このようなオノマトペが述語として用いられるものは使用頻度があまり高くないようである。

(10) (蚊子)哼哼哼的，像老和尚念经，或者老秀才读古文

(蚊がブンブン飛んでいる、まるで年寄りのお坊さんが経文を読んでいるか、あるいは年寄りの秀才が古文を読んでいるようだ)

(野口宗親 1995)

<sup>3</sup> 重ね形は、単音節の重ね形と多音節の重ね形を含む。

<sup>4</sup> 軽声とは、中国語における連音変化の一つであるが、単語や文のなかで音節の声調が失われることで、弱く短い音になることを指す。声調記号をつけないことで軽声を表すことが一般的である。

- (11) 张有才象个哑巴，一天说不了十句话;张有义象只麻雀，整天吱吱喳喳。  
 (張有才は口がきけない人のように、一日 10 個のフレーズも喋れていない。張有義は雀のように、一日中ペチャペチャ喋っている。)

(野口宗親 1995)

このように、現代中国語においては、1音節のオノマトペは述語になりやすく、主に2音節および4音節のオノマトペが述語用法として用いられやすい。しかし、2音節のオノマトペが助詞や補語などを伴わないまま単独で述語用法として用いられる場合は、ほとんどが(12)のように、詩歌的用法として韻を踏むためのものである。こういった用法以外の2音節のオノマトペはほとんどが動態助詞や補語あるいは目的語を伴って用いられる。

- (12) 笔声查查，表声滴滴  
 (ペンの音がサラサラ、時計の音がチクタク)

(野口宗親 1995)

黄慧(2010)では、日本語および中国語において、どのようなオノマトペが述語になりやすいのかについて考察を行っている。野口宗親編(1995)の『中国語擬音語辞典』(東方書店出版)を資料としてオノマトペの述語用法について考察を行っている。この辞書には全部で431語のオノマトペが収録されている。黄慧(2010)の考察結果を次の表 1 に示す。

表 1: 中国語のオノマトペの述語用法と音節数

音節数	用例数	
2音節	44例	66%
4音節	21例	31%
3音節	1例	1.5%
6音節	1例	1.5%
その他の音節	0例	0%
合計	67	100%

日本語では、「する」を付加した形で動詞として用いることができるオノマトペはほとんどが4モーラ<sup>5</sup>で、全体の98%を占めている。2音節のオノマトペが述語成分として用いられるのは、「チンする」などごく僅かである。それに対し、中国語におけるオノマトペの述語用法は2音節が最も多く、約66%を占めている結果になっている。それに次いで多いの

<sup>5</sup> 中国語は1文字が1音節という音節構造になっているが、日本語においては「音節」と「モーラ数(あるいは拍)」という2つの概念がある。日本語のオノマトペにおいては、促音、撥音、長音がオノマトペ標識として用いられているため、モーラ数(拍)で数えることが一般的である。

が4音節であり、約31%を占めている。

このように、日本語においては「する」を後続することができるオノマトペは比較的音節数の制限を多く受ける<sup>6</sup>のに対して、中国語のオノマトペにおける述語用法は音節数による制限が比較的緩いと考えられる。

### 2.3. 統語的特徴から見る中国語のオノマトペの述語用法

李鏡儿(2007)によると、中国語のオノマトペはその多くが形容詞述語文になることができ、動的な意味合いを持っているオノマトペは動詞述語文になることもできる。

耿二岭(1986)は、中国語のオノマトペが述語になるものについて、次の5つのパターンを示している。

表 2: 耿二岭(1986 : 80-83)による述語用法のパターン

	分類パターン
(I)	オノマトペの後ろに補助的な語や慣用句などを後続せずに直接述語になる。
(II)	助詞“的 de”を後続し、述語として用いられる。
(III)	数量補語を後続し、述語として用いられる。
(IV)	中間状態 <sup>7</sup> にある擬声詞が述語として用いられる際には目的語を伴うことができる。
(V)	現代詩歌では、1音節の擬声詞が述語として用いられることがあり、さらに助詞などの後続は必要ない。

(I) オノマトペの後ろに補助的な語や慣用句などを後続せずに直接述語になる。

(13) 电光闪，雷声滚，风嗖嗖，雨阵阵。

(雷が光り、雷鳴がゴロゴロと、風がビュービュー、雨が時折。)

(14) 他两个唧唧啾啾

(彼ら二人はコソコソ話している)

(耿二岭 1986 より抜粋)

耿二岭(1986)は、現代中国語において、このような用法は口語的である、或いは修飾的色彩が強いため、書面ではあまり用いられていないと述べている。しかし、古代中国語においてはこのような用法が一般的であり、現代中国語と鮮明な対比になるとしている。現代

<sup>6</sup> 日本語に関しては、主に広告や新聞などで用いられる「する」「だ」の付加なしで文末に現れる動詞省略用法がある。しかし、日本語の文末における動詞省略用法は、中国語ほど自由ではなく、音韻・形態的に規範からはずれているものがそれほど多くないことも報告されている。

<sup>7</sup> ここでいう「中間状態」とは、擬音語から動詞への移行段階にあるものを指す。

中国語の小説などでこのような用法が用いられるのは、韻を踏むことや、簡単さ、古さを強調すること、語形を整えることなどの役割を果たしていると考えている。

(II) 助詞“的 de”を後続し、述語として用いられる。

(15) 他走到屋门口，屋门口的火苗呼呼的。

(彼はドアの近くまで歩いて行った、ドアの近くで炎がボーボー燃えている。)

(16) 你别哼哼唧唧的。

(そこでグズグズするな。)

(耿二岭 1986)

(III) 数量補語を後続し、述語として用いられる。

(17) 我的心咯噔一下：坏啦，有人晕车。

(私はちょっとドキッとした：やばい、車酔いする人がいる。)

(耿二岭 1986)

(18) 唧唧啾啾一会，天色渐渐明了。

(しばらくの間ヒソヒソ話していたら、夜が明けた。)

(耿二岭 1986)

(IV) 現代中国語において中間状態にある擬声詞が述語として用いられる際には目的語を伴うことができる。

(19) 你们一天到晚嘻嘻什么？

(あなたたちは、何を朝から夜までクスクス笑っているの?)

(耿二岭 1986)

目的語を伴うことに関して、李鏡儿(2007)では、動的な意味を持つオノマトペは他動詞として用いられ、目的語を取るものが非常に稀であるとし、次のような用例をあげている。

(20) “如果我有一把冲锋枪，我就突突了你！”

(前略 もし私が銃を持っていれば、あなたを銃で撃ち殺してしまうだろう！)

(李鏡儿 2007 より抜粋)

(V) 現代詩歌では、1音節の擬声詞が述語として用いられることがあり、さらに助詞などの後続は必要ない。

- (21) 黄洋界上炮声<sup>隆</sup>，报道敌军宵遁  
(黄洋界では大砲が<sup>ドドンと鳴り</sup>、敵の夜逃げを知らせている)  
(耿二岭 1986 より抜粋)

李镜儿(2007)では、動的属性を持っているオノマトペが述語用法として用いられる際には、“动态词(動態詞→アスペクト助詞)”の“着 zhe, 了 le, 过 guo”や、“方向补语(方向補語)”の“起 qǐ, 起来 qǐlái”を伴うことができ、“不 bù”で否定することができることを述べている。

- (22) 他生气了，<sup>咕嚕</sup>着嘴半天不说话。  
(彼は怒って、長い間口を<sup>モグモグ</sup>して何も話さなかった。)  
(耿二岭 1986 より抜粋)

- (23) 紧急使用肥皂擦了车轴，就不<sup>吱呀</sup>了。  
(急いで石鹼で車の車軸を拭いたら、もう<sup>ギーギー</sup>言わなくなった。)  
(耿二岭 1986 より抜粋)

このように、中国語におけるオノマトペの述語用法については、いくつかの先行研究によって使用パターンが整理されているものの、オノマトペの述語用法の使用実態および諸特徴について詳しい考察が行われていない。

### 3. 研究方法

2音節のオノマトペが述語になりやすいという先行研究(黄慧 2010)の記述を踏まえ、本稿では李镜儿(2007)における2音節のオノマトペのリスト(321語)から無作為に75語を検索語彙として選定し、CCLコーパス(北京大学中国语言学研究中心 Center for Chinese Linguistics PKU CCL 语料库规模: 4.77 亿字(1.06GB) 2009-07-20 更新)を用いて用例収集を行った。用例を収集する際、用例数が50例以下のものはすべて収集し、50例以上のものは50例まで収集したうえで、2音節のオノマトペの用例データベースを作成した。以下、75語を(24)に示す。

- (24) アルファベット順(下線は今回述語用法が検出されたオノマトペ)<sup>8</sup>

<sup>8</sup> 野口宗親(1995)にも言及があるように、中国語のオノマトペが動詞的用法として用いられる際には変調が起こり、2音節目が軽声になる。本稿では『中日辞典 第二版』(小学館)および『现代汉语词典 第五版』(商务印书馆)の2冊の辞書を用い、動詞的用法があるもの、つまり辞書に軽声で表記されているものに関しては軽声として表記する。



ā ā	ā yā	áoáo	bādā	bā ji	bāngbāng	bēngbēng	bōbō	cācā	cēngcēng
1 啊啊	2 啊呀	3 嗷嗷	4 吧哒	5 吧唧	6 邦 邦	7 蹦蹦	8 剥剥	9 嚓嚓	10 噌 噌
chāchā	chánchán	chīchī	cīcī	chīliū	cóngcóng	dādā	dāngdāng		
11 喳喳	12 潺潺	13 哧哧	14 刺刺	15 哧溜	16 琮 琮	17 哒哒	18 当当		
dānglāng	dīda	dīdī	dígu	dīliū	dīlū	dīngdāng	dīnglíng		
19 当 啷	20 嘀嗒	21 滴滴	22 嘀咕	23 滴溜	24 嘀噜	25 丁 当	26 丁 玲		
dōngdōng	dūdū	dūlu	dūnang	duōsuo	è è	gābēng	gā ji	gēdēng	
27 咚 咚	28 嘟嘟	29 嘟噜	30 嘟囊	31 哆嗦	32 呃呃	33 嘎 嘣	34 嘎脚	35 咯 瞪	
gēgē	gūgū	gūgū	gūlu	gūlu	gūnong	guāngdāng	hāhā	hēhē	
36 咯咯	37 咕咕	38 呱呱	39 咕噜	40 骨碌	41 咕 咚	42 咣 当	43 哈哈	44 呵呵	
hēihēi	hēnghā	hōnghōng	hōnglōng	hūhū	hūlū	huāhuā	huālā		
45 嘿嘿	46 哼 哈	47 哄 哄	48 轰 隆	49 呼呼	50 呼噜	51 哗 哗	52 哗 啦		
jīgu	kāchā	kēngchī	kēngqiāng	kuānglāng	lānglāng	lǎodao			
53 叽咕	54 咔嚓	55 吭 哧	56 铿 锵	57 哐 哐	58 琅 琅	59 唠 叨			
miāomiāo	nánán	nínán	pādā	pīpā	pūchī	pūpū	pūtōng		
60 喵喵	61 喃喃	62 呢 喃	63 啪嗒	64 噼啪	65 噗嗤	66 噗噗	67 扑 通	68	
sàsà	shuāshuā	tāla	wēngwēng	xīxī	zézé	zhīya	zīliū		
飒飒	69 唰 唰	70 趿拉	71 嗡嗡	72 嘻嘻	73 啧啧	74 吱 呀	75 滋 溜		

上記の方法で検索した結果、75 語のうち、32 語のオノマトペに述語用法が確認できた。収集した全部の用例は 3,156 例であるが、そのうち述語用法として用いられたものは 348 例である。

#### 4. 考察

##### 4.1. 助詞の有無について

動態助詞(アスペクト助詞)“了 le, 着 zhe, 过 guo”を伴って述語になることについては既に先行研究に指摘があるが、本稿では 2 音節のオノマトペが取りうるすべての助詞とどのように共起しているのか、その使用実態について考察する。以下、表 3 に詳細を示す。

表 3: 助詞の有無

	詳細	用例数	割合(約)
述語 (348 例)	助詞 有	199 例	57%
	助詞 無	149 例	43%
	合計	348 例	100%

助詞を伴って現れるものが、助詞を伴わないものより若干頻度が高いことがわかる。次に、表 4 に後続する助詞の詳細を示す。

表 4: 助詞の詳細

	詳細	用例数	割合(約)
助詞 有 (199 例)	着	123 例	61.8%
	了	73 例	36.7%
	过	1 例	0.5%
	的	1 例	0.5%
	呢	1 例	0.5%
	合計	199 例	100.0%

述語用法として用いられるオノマトペが伴う助詞の共起頻度はかなりのばらつきが見られる。

#### 4.1.1. “着 zhe” を後続した形で用いられるもの

助詞を取るもののなかで“着 zhe”を伴って用いられた用例が圧倒的に多く、約 61%を占めている。助詞“着 zhe”を用いている用例はすべてが、動的要素が含まれるオノマトペであり、“着 zhe”を後続することで、その動的なものがいま現在、行われている状態であることを表している。つまり、中国語の現在進行形を表す形の一つとして用いられていることが分かる。

- (25) 祥子本不吸烟，这次好似不能拒绝，拿了支烟放在唇间吧唧着。  
(祥子はもともと煙草を吸わなかったが、今回は断れないようなので、煙草を口に咥えてスパスパ吹かしている。)
- (26) 不知道是谁在后边笑マ声叹息地嘟囔着  
(誰か知らないけど、後ろで笑いとため息混じりでブツブツ話している)

中国語において助詞“着 zhe”は、動詞に後続した形で動作の進行を表すことができる。助詞“着 zhe”以外にも、“在 zài”“正 zhèng”“正在 zhèng zài”を動詞の前に前置することで動作の進行を表す形式もあり、時にこれらと一緒に現れる。オノマトペの述語用法においても同じく、(27)のように、両方用いられる用例がいくつか確認できた。

- (27) 他正在咕啾着把纸咖啡杯，香蕉皮等等塞进一个杂货店的大牛皮纸袋然后扔到卡车后箱中去时，车门碰的一声碰上了，打了他的屁股一下。

(彼は今まさに、ブツブツ言いながら、紙のコーヒーカップやバナナの皮などを雑貨店の大きい紙袋に放り込んでからトラックの中に入れようとした。そのとき、車のドアとドーンとぶつかり、お尻を打った。)

“着 zhe” を伴っているものはほとんどが動的な意味を表すオノマトペと共起し、現在の動作の進行を表しているが、その中で(28)のように、ある結果状態を表す用例もある。

- (28) 金橋下意识地盯着她的脚，她的脚上现在穿着普通的黑布鞋，而且是趿拉着。  
(金橋は無意識に彼女の足をじっと見た。彼女はいま黒布の靴をつっかけている。)

オノマトペに助詞“着 zhe”を後続することで「靴を履いている状態」を表している。本来、中国語における動作の進行は先述した“在 zài”「正 zhèng”“正在 zhèngzài”“呢 ne”“着 zhe”など、単独あるいはいくつかを組み合わせる形で用いる。その中で“着 zhe”は、主に“门开着 ménkāizhe”（ドアが開いている）のように、結果状態を表す際に多く用いられているが、オノマトペの述語用法において結果状態を表す際に用いられていたのは、この1例のみであり、それ以外はすべて動作の進行を表す際に用いられている。

日本語においても、「スル型」のオノマトペは「シタ/シテイル」形で用いられ、モノや人の属性・状態などを表すことができる。日本語では「スベスベした肌/壁がザラザラしている」のように性質を表すものが圧倒的に多いのに比べ、中国語においては、“着 zhe”を伴うオノマトペはほとんどが動作性を含むものであることが分かった。

#### 4.1.2. 助詞“了 le”を後続した形で用いられるもの

助詞“了 le”を伴って現れる用例は73例で、約37%を占めているが、その中で“了 le”が文末に使われ、文が完了した形の用例は1例も確認できなかった。ほとんどの用例は以下に示すように、目的語や補語を伴っている。

- (29) 他用力把拳头一伸，自个儿嘟噜了一句：“老卢这家伙简直要把我送到养老院啦！”  
(彼は力を入れて拳を出して自分でブツリと一言言った。「盧さんというやつは、まったく、私を養護施設に入れようとしているんだね！」)
- (30) 中村接着又咕噜了几句日本话。  
(中村は続けて日本語をブツブツ呟いた。)
- (31) 她小声地咕啾了一阵，介绍人郑重宣布：“她说她不扫地，因为她的兴趣只在洗衣服。”  
(彼女は小さい声でしばらくの間ブツブツ言ってから、紹介人に「彼女は床を拭かないと言っている。彼女の関心は洗濯することだけにあるからだ」と厳粛に宣言した。)

このように、“了 le”が文末に現れて終わる文はなく、多くが目的語や補語を伴っている。

これについては後程詳しく述べる。

#### 4.1.3. その他(助詞“的 de”“呢 ne”“过 ne”を後続した形で用いられるもの)

オノマトペとの共起頻度が低かった助詞は、次の、“过 ne”“的 de”“呢 ne”の3つである。これらはそれぞれ1例ずつしか確認できなかったため、まとめて示すことにする。

- (32) 脚踩油门<sup>哆嗦</sup>过, 手握方向盘害怕过, 没准还挨过教练的骂, 不过, 就是没有哭鼻子。  
(足でアクセルを踏むとき<sup>震えたことがある</sup>。手でハンドルを持ったとき怖がったことがある。教官に叱られたこともあるだろう。しかし、泣くことだけは絶対なかった。)

李鏡儿(2007)で既に指摘しているとおおり、動的な意味を持つオノマトペは“了 le”“着 zhe”“过 guo”を伴うことができる。しかし、“着 zhe”“了 le”との共起頻度は高いものの、述語用法で“过 guo”を伴うものは非常に少なく、確認できたのは僅か1例のみであった。

次に、助詞“的 de”を後続するものについてみていく。先行研究では中国語のオノマトペは助詞“的 de”を伴って述語として用いることが多いと指摘しているが、今回収集した2音節のオノマトペの用例の中では僅か1例しか確認できなかった。以下、用例を示す。

- (33) 后来, 牙长齐整了, 歌声<sup>嗡嗡的</sup>, 很难听。爸解释说, 牙齿不漏风, 少了一个音。真遗憾!  
(その後、歯が全部生え揃ったので歌声が<sup>こもっていて</sup>、ひどかった。「歯の間から空気がもれなくなったので音が一つ少なくなっている、誠に遺憾なことだ!」とお父さんは、説明した。)

2音節のオノマトペが述語として用いられる際には、“的(de)”を伴って形容詞的用法として用いられるものよりもオノマトペのみで静的状態を表すものが多い。これについては4.3節で触れることにする。

そして、先行研究で指摘がなかったオノマトペの述語文に語気助詞を伴う用例が1例のみ確認できた。以下、用例を示す。

- (34) 如果他炼的钢化验报告当天没出来, 你瞧吧, 他回家且<sup>嘀咕</sup>呢, 睡觉都不踏实。  
(もし、彼が製鋼した調査報告が当日に出ていなかったら、みてろよ、彼はきっと家に帰っても<sup>ブツブツ言うだろう</sup>。熟睡もできないだろう。)

“呢 ne”は、返答要求、現在進行、推測を表すことなど様々な用法がある。ここで用いられている語気助詞“呢 ne”は、文末に置かれ話者の推測を表す場合に用いられている。「言うでしょう／言うだろう」のような意味を表している。

#### 4.2. 目的語の有無について

先行研究では、中国語におけるオノマトペの述語用法は目的語を取るものが非常に少ないという指摘している。ここでは、2音節のオノマトペが述語として用いられる際にどのような目的語を取るのかについて考察する。以下、表5に詳細を示す。

表5: 目的語の有無

	詳細	用例数	割合(約)
述語 (348例)	目的語 有	110例	32%
	目的語 無	238例	68%
	合計	348例	100%

全体的に、中国語のオノマトペは目的語を伴って現れるものが、目的語を伴わないものより頻度が低いことがわかる。次に、表6に後続する目的語の詳細を示す。

表6: 目的語の詳細

	詳細	用例数	割合(約)
目的語 有 (110例)	言語類名詞	59例	53%
	具体名詞	34例	31%
	身体名詞	6例	5%
	疑問詞	5例	5%
	抽象名詞	4例	4%
	指示詞	1例	1%
	フレーズ	1例	1%
	合計	110例	100%

##### 4.2.1. 言語類を目的語として取るもの

2音節のオノマトペが述語として目的語を取る際、言語に関する名詞が最も多く、約53%を占めている。

(35) 树枝碰触着他们的肌肤，干枯的叶子擦过他们的头发，在他们的耳中呢喃着奇异的语言。

(枝が彼らの皮膚に触れている。枯れ果てた葉っぱは彼らの髪を擦りながら、彼らの耳元で奇妙な言語を囁いている。)

(36) 五点钟，介石进门来了。满口抱歉迟到。孔夫人佯作愠状狠狠地瞪他一眼。但是他走过

去，向她咕啾一些讨好的话。

(5 時になり、介石は入ってきた。ひたすら遅れたことについて謝った。孔夫人は怒っているように偽り、彼をひどく睨みつけた。しかし、彼は彼女のところまで歩いて行って、気に入られるための話を囁いた。)

- (37) 还有一次近代外交史课上，讲到杨度的时候老师说这个人他也不太清楚，我在下面嘀咕了一句“王运的学生”，他马上就说，好，你来给大家说说，(後略)

(近代外交史の授業で楊度という人物について話していたとき、先生は自分もこの人物についてはあまりよく分からない、と言っていたので、私は、「王運の学生だよ」と一言呟いた。そしたら先生は直ちに、「じゃ、あなたが皆に説明してあげなさい」と言ってきた。 後略)

このように、目的語が言語類を表すものには、「言葉」、「言語」、「一言」、「日本語」などのような名詞が用いられている。この中でも特徴的なのは 59 例中、48 例の用例が(37)のように「一言」「二言」「幾つもの言葉」のような目的語を取っていることである。これは、今回調査したオノマトペの中で、述語になりやすい 2 音節のオノマトペに「言う」という意味を表す動詞として用いられる発話動詞が多いことに起因している。

#### 4.2.2. 具体名詞を目的語として取るもの

次に、具体名詞を目的語として取るものは 34 例で、約 31%を占めている。具体名詞を目的語とする用例を以下に示す。

- (38) 金三爷有点摸不清头脑了，吧唧着烟袋，他楞<sup>マ</sup>起来。

(金三爺はちょっと訳が分からなくなっていて、キセルをスパSPA吸いながら、あきれ返った。)

- (39) 今天的许多老百姓，还未来得及辨别商品的优劣，到先开始嘀咕手中的钞票。

(今日の人たちは、商品の良し悪しを見分ける前に、手元のお金を気にしている。)

- (40) 土炕上一张旧席，半条烂毯，小孩污垢厚厚的脚上趿拉着一双破鞋。

(オンドルの上には古い敷物とぼろい毛布がある。垢が分厚い子供の足には古い靴がつかかっている。)

このように、目的語として用いられる具体名詞は「お金」「煙草」「靴」などの名詞である。具体名詞の用例のうち、最も特徴的なのは「靴」という名詞を目的語として取るものが圧倒的に多いことである。34 例中 30 例が「靴／スリッパ」などの名詞であり、これらを目的語として取るオノマトペは“趿拉 tāla” 1 語のみである。このことから分かるように、中国語のオノマトペにおいても修飾する対象物とコロケーション的に密接に関連しているものがある。日本語のオノマトペにおいても「ぷかぷかする」の場合は、「煙草」という対

象を修飾する際に用いられ、「すやすや寝る」の場合は、「赤ちゃん」という対象を修飾する際にのみ用いられ、大人の寝る姿には用いられにくい。

#### 4.2.3. 身体名詞を目的語として取るもの

身体名詞を目的語として取る用例は6例で、全体の約5%を占めている。身体名詞を目的語として取る用例を以下に示す。

- (41) 屋外，雪花偶尔地在纸窗上飘洒那么几片；炕上，孩子轻轻地吧唧着小嘴。  
 (部屋の外は、雪がたまに紙窓に落ちてくるぐらいである。オンドルの上では、子供たちが口を軽くモグモグさせている。)
- (42) 那个男孩已经变成衰弱的老人，而当年的那个女孩子于他邂逅时，他正哆嗦着手点燃着一支劣质的香烟。  
 (あの男の子はもう既に衰弱した老人になり、当時のあの女の子が彼と出会った時に、彼はまさに手を震わせながら、質の悪い煙草に火をつけているところだった。)

このように、目的語として用いられているのは、「手/口」などの名詞である。日本語のオノマトペが動詞的用法として用いられる際には他動詞的用法が少なく、身体名詞を目的語として取る際には、「足をバタバタする」のように「する形」を用いるよりも、「足をバタバタさせる」「口をパクパクさせる」のように「サセル」形を用いる傾向が強いと言われている(西尾寅弥 1981、影山太郎 2006)。今回の調査から中国語のオノマトペの述語用法においては、身体名詞を目的語として取る用例を確認することができたが、日本語のように使役形を用いる用例は確認できなかった。

李鏡儿(2007)では、中国語のオノマトペにおける述語用法において、他動詞として用いられるものが非常に少ないと記述しているが、本稿での調査を見る限り日本語のオノマトペの述語用法に比べると他動性を持っているオノマトペが少なくないということが明らかになった。

#### 4.2.4. 疑問詞を目的語として取るもの

疑問詞を目的語として取る用例は全部で5例、全体の約5%を占めている。疑問詞を目的語として取る用例を以下に示す。

- (43) 你在那儿咕哝什么，杰克？有什么事别瞒着我。  
 (あそこで何をブツブツ言ってるの？ジャック、何かあったら私に隠さないでね。)
- (44) 大叔赶紧怯怯地责怪道：“你又唠叨个啥？”  
 (叔父さんはおどおどしながら素早く、「あなたは何をクドクド言っているの？」と答めた。)

このように、目的語として用いられたのは、すべて「何」を表す疑問詞である。口語とのバリエーションで“什么 shénme” 以外に、“啥 shá” も用いられている。

#### 4.2.5. 抽象名詞を目的語として取るもの

抽象名詞を目的語として取る用例は全部で4例、全体の約4%を占めている。抽象名詞を目的語として取る用例を以下に示す。

- (45) 因为他们说这是阴影之人聚会的地方，他们会在众人恐惧的时候聚集，在这里呢喃著邪恶的阴谋。

(彼らは言った。これは影の人間たちが集まる場所であると。彼らは人々がおびえているときに集まり、ここで邪悪な陰謀をヒソヒソ囁いている。)

- (46) 他衣着随便，和蔼可亲，愿意随时停下来听你唠叨生活的艰辛，和你共享甘苦。

(彼は服装がカジュアルで、とても優しい。いつでも立ち止まって、あなたが生活の辛さをクドクドと言うのを聞いてくれて、あなたと苦楽を共にする。)

このように、目的語になる抽象名詞は、「辛さ／陰謀／神秘さ」のような名詞である。そして、今回収集できた用例の中で抽象名詞は、「言う」という意味を表す発話動詞として用いられるオノマトペの目的語として用いられている。

#### 4.2.6. その他(指示詞とフレーズ)

指示詞とフレーズを目的語として取る用例はそれぞれ1例ずつであった。ここでまとめて示す。

- (47) 唠叨这些，出点丑，目的是为了恳求科技界人士多看重些科技普通话，也就是使人明白的科技话。

(これらを呟くことで少し恥をさらしている目的は、科学界の人々にもっと科学技術に関する標準語つまり皆に伝わる分かりやすい科学技術の言葉を見てほしいためである。)

- (48) 我猜得到它们的想法：痛恨所有用两只脚步行的生物，他们不停呢喃著要勒死和压碎这些家伙。

(私は彼らの考えが推測できる。すべての2足で歩いている生物をひどく憎む。彼らはいつも、こいつらを縛り殺したい、潰し殺したいと呟いている。)

この2例に関しても、「言う」の意味を表すオノマトペであり、「～と言う」に当たる「話す内容」が丸ごと目的語の位置に置かれている。フレーズが目的語の位置に来られるのも



「言う」形のオノマトペの特徴であるといえる。

#### 4.3. 補語の有無について

先行研究では、中国語におけるオノマトペの述語用法は方向補語と数量補語を取ることができると指摘している。本稿では、2音節のオノマトペが述語になった際にどのような補語を取りやすいのか、そしてその使用実態について考察する。以下、表7に詳細を示す。

表7: 補語の有無

	詳細	用例数	割合(約)
述語 (348例)	補語 有	70例	20%
	補 無	278例	80%
	合計	348例	100%

中国語のオノマトペは補語を伴って現れるものが70例で、20%を占める。次に、表8に後続する補語の詳細を示す。

表8: 補語の詳細

	詳細	用例数	割合(約)
補語 有 (119例)	数量補語	48例	69%
	方向補語	14例	20%
	程度補語	3例	4%
	様態補語	2例	3%
	結果補語	2例	3%
	前置詞句補語	1例	1%
	合計	70例	100%

##### 4.3.1. 数量補語を取るもの

数量補語を取る用例が最も多く、48例で全体の約69%を占めている。数量補語を取る用例を以下に示す。

(49) 他们叽咕了一阵，鬼子把听筒放下以后，脸上有了笑容，很快的走到我的跟前来，(後略)

(彼らはしばらくの間、ヒソヒソ話した。敵らは受話器を置き、笑顔を浮かべながら素早く私の前まで歩いてきた。 後略)

(50) 尽管他极力摆出一副和蔼状，但那目光中隐含的杀气还是让小六子哆嗦了一下。

(彼がいくら優しい顔をしていても、あの目に隠れている殺気は小六子をちょっと震  
わせた(動揺させた)。)

(51) 这话妻子几乎每天都要向我唠叨几遍。

(この話、うちの奥さんはほぼ毎日何回も私にブツブツ言ってくる。)

このように、数量補語は時間的に「しばらくの間」を表す“一阵 yízhèn, 一会 yíhuì”との共起頻度が非常に高い。それから、動作の量を表す“一下 yíxià”や“一番 yífan”と共起することも多い。

#### 4.3.2. 方向補語を取るもの

方向補語を取る用例は全部で14例、全体の約20%を占めている。方向補語を取る用例を以下に示す。

(52) 他要是急了，那小三角眼一瞪，两片薄嘴唇一闭，大长脸嘟囔下来，也怪吓人的。

(もし、彼が怒ったら、小さい三角の目を睨み付け、薄い唇を閉じ、長い顔を垂らして  
いるので結構怖いもんだよ。)

(53) 屋里的人们等烦了，嘟囔起来：“许政委还不来呀”

(部屋の中の人たちはもう待ちきれなくなり、ブツブツ言い始めた。)

このように、方向補語は「～し始める」を表す“起来 qǐlai / 开 kāi”や「～し続ける」を表す“下去 xiàqu”との共起頻度が非常に高い。

#### 4.3.3. 程度補語を取るもの

程度補語を取る用例は全部で3例、全体の約4%を占めている。程度補語を取る用例を以下に示す。

(54) 酒鬼讲到他的手在粉粉光洁的大腿上抚摸时，就会张开忘乎所以的嘴，啊啊个不停。

(飲んべえは、彼が粉粉さんのなめらかできれいな足を触っているところを話すと、  
すぐ我を忘れて口をぽかんと開け、アアと叫び続ける。)

(55) 竹筒一到晚哗啦个不停，像丧家道场上和尚们的万年经，依依呀呀，(後略)

(竹筒は夜になるとゴトゴト音が止まらない、まるで喪家道場のお坊さんたちのお経  
みたいに、ああうう 後略 )

このように、3例とも「～し続ける／～するのをやめない」を表す“不停 bùtíng”を補語  
に取る用例である。

#### 4.3.4. その他(様態補語・結果補語などを取るもの)

様態補語、結果補語を取る用例はそれぞれ2例で、全体の約3%を占めている。様態補語、結果補語を取る用例を以下に示す。

- (56) “念去!”老师的嘴嘎唧得很快, 眼角露出点笑意。  
(「あっちで読みなさい。」先生の口は素早くベチャベチャ動き、そして目じりには少しの笑顔を見せた。)
- (57) 他唠叨完了, 又爱拖マ一句: “话又说回来, 如今日子越来越富裕了, 也就不在乎初装费 4000 元了。”  
(彼はブツブツ言い終わって、また「話戻るけど、今の時代は生活がどんどん裕福になってきたので、初期費用の4000元なんてものはあまり気にしなくなったね。」といった。)

このように、様態補語の用例においては、「素早く/多く」を表す“快 kuài/多 duō”を補語に取る。結果補語の用例においては、「～し終わる」を表す“完 wán”を後続した形で程度補語として機能する。

最後に、(58)のように、前置詞を伴って現れる用例があるが、本調査で僅か1例しか確認できなかった。

- (58) 像钢笔水嘀嗒在桌子上, 甩在墙上(後略)  
(万年筆のインクが机の上に垂れ落ちるように、壁に振り回された。)

#### 4.4. 何も伴わないものについて

先行研究では、オノマトペの述語用法のうち、オノマトペのみで現れる用法が最も多いことについて指摘している。今回の調査は、何も伴わずに述語として用いられた用例が62例得られ、約18%を占めている。何も伴わず、そのまま述語成分として用いる用例を以下に示す。

- (59) 今天搞建设, 我们要像红岩英烈那样, 坚信事业必成” 已 84 岁高龄的荣老, 讲起话来声音铿锵  
(「今日、建設をするにあたり、我々は紅岩英烈のように、「革命は必ず成功すると堅信するべきだ」もう84歳で高齢である栄さんが話をしていると美しく響く)
- (60) 夏末, 记者来到临桂, 但见移民新居楼房幢幢, 街道整齐, 新建校园书声琅琅  
(夏の末、記者が臨桂に来たときは、移民用新居の建物がずらりと並び、町並みは綺麗に整っていて、新しく建てられた校庭に響く朗読の声は明るく澄んでいる)
- (61) 蜜蜂并非如我们认为的那样忙忙碌碌。它们没办法小点儿声嗡嗡

(蜂は私たちが思っているほど忙しくない、蜂たちはただ小さい音でブンブン飛ぶことができないだけだ)

上に示した用例は韻を踏むために用いられるとの指摘もあるが、動的要素よりも静的要素のほうが強い印象を受ける。即ち、形容詞的に述語として用いられている。王文格(2010)では、中国語においては一般的に述語と主語の間には、ある音韻的な制約があると主張している。しかし、その制約がオノマトペの述語用法においては必ずしもそれほど機能していないことが伺える。

#### 4.5. その他について

4.1 節から 4.4 節で挙げている用例以外にも、“连谓句(連述構造)”、並列構文で用いられるもの、承接構文で用いられるものなどがある。以下、順に見ていく。

連述構造で用いられた用例は 42 例で約 12% を占める。主に(62)のように“着 zhe”を伴って用いられたものと、(63)のように“道 dào”を伴うものである。

(62) 这人本能地哼了一声。原来是活的，我嘟囔着蹲下身子，于是俺心里想：是救他呢还是继续前行？

(この人は本能的に一言唸った。「元々は生きていたのね」と私はブツブツ言いながらしゃがんだ。そして私は心の中で「助けるべきか、それとも前に進むべきか？」を考えた。)

(63) 陈一平嘟囔道：“说什么呀，值得吗？”

(陳一平がブツブツと言った：「何を言ってるんだ。やる甲斐があるのか？」)

“着 zhe”を用いることで「～して～」という意味になり、動作と動作が順次に行われていることを表している。特徴的なのは、発話動詞として用いられるオノマトペが“道 dào”と共起し、用いられることである。(63)のような用例は全部で 21 例、連述構造の用例全体の約 50% を占めている。

続いて、並列構文についてみていく。並列構文の用例は全部で 6 例確認できた。以下用例を示す。

(64) 乌龙却一边吃一边咕哝：“我宁愿要女人！”

(烏龍は食べながらブツブツ言った。「私はむしろ女を選択する！」)

(65) 他脖子上挂一支匣子枪，一面走，一面嘟噜：“妈的”

(彼の首にはモーゼル拳銃がかかっている、歩きながらブツブツ言った「畜生」)

どちらも「～しながら～する」の意味を表す“一边 yìbiān, 一边 yìbiān”や“一面 yímiàn,

一面 yímiàn” の構文を用いて動作の同時進行を表す用例である。

次に、承接構文についてみていく。承接構文の用例は全部で 1 例しか確認できなかった。以下用例を示す。

(66) “四人帮”粉碎了，他的平板的脸上也出现过短暂的笑容，但跟着肚子里一阵叽咕就消失了。

(「四人組」は終わった。彼の平べったい顔には短い間の笑顔が現れた。しかし、お腹がしばらくゴロゴロ鳴るにつれて消えて行った。)

「～するにつれて～する」のような意味として“就 jiù”を伴って、承接構文として用いられている。

## 5. おわりに

本稿では、中国語における 2 音節のオノマトペの述語用法について、その使用実態およびその諸特徴について考察を行った。

先行研究で指摘している記述を検証することによって、その使用実態を探ることができた。さらに今回の調査を通して、今まで指摘されなかった新たなパターンも見ることができた。

助詞の有無に関して、助詞を伴うものと伴わないものとの使用頻度はあまり差がなかった。助詞を伴って用いられる用例においては、共起する助詞によってばらつきがあり、本稿の調査では、“着 zhe”を伴う用例の使用頻度が 60%を超えて最も高かった。助詞“了 le”の使用頻度も高かったが、先行研究の指摘にあった“的 de”を伴う用例はごく僅かであることが確認できた。このことから中国語における 2 音節のオノマトペは“的 de”を伴って用いることは稀であり、共起度が低いと言えるだろう。

2 音節のオノマトペが目的語を伴う用例は約 32%を占めている。中国語のオノマトペは他動詞的に用いることが少なく、さらに目的語を伴う使い方は非常に少ないとする先行研究の結論とは異なり、目的語を伴って現れている用例が 3 割近く占めていた。そして、目的語になる名詞の特徴としては「言語類」のものが圧倒的に多く、約半数以上を占めている。身体名詞を目的語として取るオノマトペは、日本語において「サセル」形を多用しているのに対して、中国語ではそのような制限見られなかった。

補語を伴う用例は約 20%を占めている。「時間的にしばらくの間」を表す用例や、動作の量を表す補語の使用頻度が高く、次いで多く用いられていたのが「～し始める」「～し続ける」のような意味を表す補語であった。結果補語を伴うものが非常に少なかったのは、4.1. で触れた“着 zhe”に関係していると考えられる。中国語で、“着 zhe”は動作完了の持続を表すことができることから、結果補語と“着 zhe”を併用しているためであると考えられる。

何も伴わないものに関しては、そのままの形で、あるものの状態を表す形容詞的用法として用いられている。そして、「言う」形のオノマトペで、「～と言う」のように、日本語であれば括弧で括られる部分の前に「:」記号が用いられ、後ろに話した内容が後続するパターンが非常に多かった。

本稿では、一般動詞文に加え、連述構文、並列構文や承接構文など様々な複文に現れたオノマトペの述語用法についても触れた。このように、中国語の2音節のオノマトペの述語用法は様々な制限を受けているものの、目的語や補語を取る、複文を作るなど、一般動詞の述語用法と区別されるものではないことが分かる。

日本語において使用頻度の高い「しっかりする／はっきりする」などは、オノマトペである認識が薄くなっていると言われている。中国語においても日本語同様に、使用頻度が非常に高い“呢喃 *nínán*”“嘟囔 *dūnang*”などは、野口宗親(1995)や耿二岭(1986)でいう動詞化されたものである。インフォーマントへの調査からは、これらのオノマトペは、動詞として認められ、オノマトペであるという認識が非常に薄いということが分かった。

今回は調査の対象として2音節のオノマトペ75語を無作為に選んで用例を収集したため、分析や考察結果に偏りがあった可能性がある。これからはもっと多くの用例を収集するとともに、2音節のオノマトペ以外の音節の述語用法について考察することを今後の課題にしたい。

## 参考文献

### 【中国語の文献】

- 傅力(1983)「象声词作谓语浅说」『汉语学习』第四期(总十六期):2-55 汉语学习编辑部  
耿二岭(1986)『汉语拟声词』湖北:湖北教育出版社  
郭锐(2002)『现代汉语词类研究』北京:商务印书馆  
李镜儿(2007)『现在汉语拟声词研究』上海:学林出版社  
马庆株(1987)「拟声词研究」『语言研究论丛』第四期,南开大学出版社(筆者閲覧:2002 著名中年语言学家自选集,马庆株卷 229-261 安徽教育出版社)  
邵敬敏(1981)「拟声词初探」『语言教学与研究』第四期(总第十期):57-66 语言教学与研究出版社  
王文格(2010)『现在汉语形谓句优先序列研究』北京:中国社会科学出版社  
徐洁・姚双云(2009)『动词与宾语问题研究』武汉:华中师范大学出版社  
朱德熙(1982)『语法讲义』北京:商务印书馆

### 【日本語の文献】

- 影山太郎(2006)「擬態語動詞の統語構造」『人文論究』56-1:83-100 関西学院大学人文学会  
黄慧(2010)「日中オノマトペの述語用法の諸特徴に関する対照研究 —辞書の用例を用いた予備調査—」東京外国語大学記述言語学研究論集『思言』6:3-23 東京外国語大学

- 高増傑(1982)「日中両国語における擬態語の対照—その構成と文法機能に関する二・三の考察」『中国語研究』22 : 32-53 白帝社
- 砂岡和子(1990)「現代中国語のオノマトペ」『学習院大学言語共同研究所紀要』13 : 83-96 学習院大学
- 丹野眞智俊(2005)『オノマトペ(擬音語・擬態語)を考える—日本語音韻の心理学的研究』京都 : あいり出版
- 陶振孝(1992)「中国語と日本語の「擬声語」についての対照」『講座 日本語教育』27 : 148-161 早稲田大学語学教育研究所
- 西尾寅弥(1981)「「擬音語・擬態語+する」の形式について」『語学と文学』20 : 82-96 群馬大学語文学会
- 野口宗親(1995)『中国語擬音語辞典』東京 : 東方書店
- ヤーホントフ C.E.(1957)『中国語動詞の研究』(橋本萬太郎 1987 訳)東京 : 白帝社

#### 【調査資料】

北京大学中国语言学研究中心语料库 (Center for Chinese Linguistics PKU)

#### 【参考辞書】

- 依藤醇・小川文昭・三宅登之編(2002)『中日辞典 第二版』東京 : 小学館
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編(2007)『现代汉语词典 第五版』北京 : 商务印书馆

## 概要

汉语中关于拟声词谓语用法的先行研究不太多，本文的主要目的在于考察汉语中双音节拟声词的谓语用法。

我们任意选定了 75 个双音节拟声词，从语料库收集到谓语用法的用例一共 348 例。

通过考察，我们得知汉语中双音节拟声词后助词的用法占全体的一半，而后附的助词不同，其使用频率也有很大差别。在这次考察中，后助词“着”的比率最多。汉语中“着”可以表示动作的进行也可以表示动作完了之后的持续态，而这次选定的双音节拟声词中具有动词性的拟声词较多，导致“着”的用例占 60% 以上。其次，后附“了”的用例占全体的 37%，主要用在动词性拟声词后，来表示动作的完成。先行研究中提到后附“的”的用法最一般，而这次我们的考察双音节拟声词中，后附“的”的用例极少，仅 1 例。汉语中可以后附“的”后，以形容词用法来充当谓语。形容词用法表示一种静态的状态，而上述“着”也可以表示一个持续的状态。双音节拟声词不带任何助词，可以独自用在句尾来表示一个状态。所以我们可以推测后附“的”的用例极少是由于这两个原因。

先行研究中还提到汉语拟声词作谓语时，很少带宾语，但是我们的考察中带宾语的用例占全体的 32%。双音节拟声词带宾语也有特征，宾语中表示语言行为的名词最多，占全体的 54%，其原因在于任意选定的 75 个双音节拟声词中表示“说话”类的动词性拟声词所占的比例比较多。其次是具体名词，而具体名词中“鞋”类名词最多占全体的 88%。带“鞋”类名词的所有用例，其双音节拟声词都是“趿拉”。由此可知，汉语中拟声词与其修饰的对象有极其密切的联系，有一个搭配问题。另外，日语中拟声词做谓语，如后面带身体部位的名词，一般其拟声词谓语用做祈使句。而汉语的拟声词谓语句没有其现象。

带补语的用例占全体的 20%。后附数量补语最多，占全体的 69%。大部分是表示时间量的“一会，一阵”还有表示动作量的“一下”。其次是方向补语，“起来，来，上了”等，表示动作的开始。